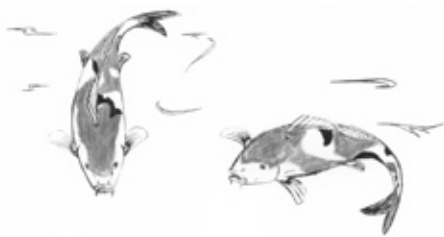

慈 恵



令和 4 年 No.80



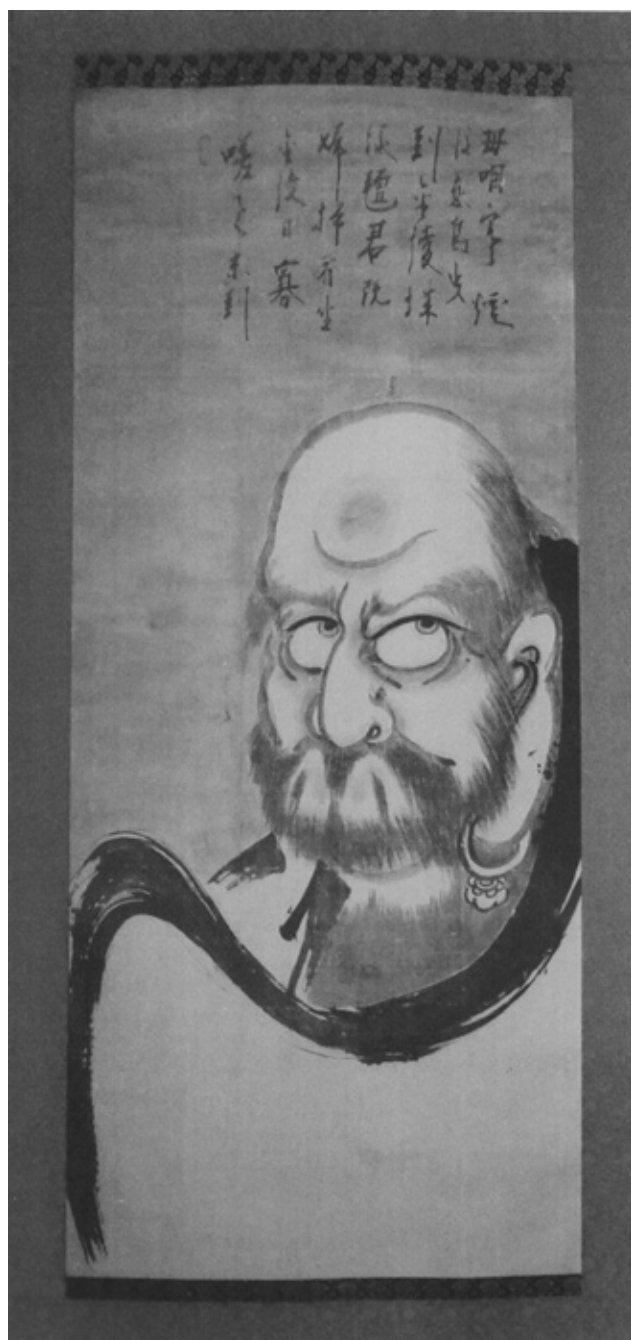
秋

宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

鑑賞

「達磨大師像」 白隠筆



江戸中期に臨済宗中興の祖と称された白隠禅師は達磨像を数多く描かれておりますが、この作品は達磨、臨済、雲門像の三幅対の中の一品で稀に見る大幅である。軸装実寸縦300センチ横110センチで一般の和室では収まりきらない大きさです。現在、尾張の定光寺の秘蔵となっております。

白隠の弟子から弟子へと受け継がれ、今に至り定光寺本として知られております。慈恵院においてその複製品（約3分2サイズ）を禅堂にて拝むことが出来ます。



(大仏殿)

古寺めぐり(2)

—東大寺—

「奈良の大仏さん」で親しまれ世界遺産になった仏教文化の宝庫

東大寺は、旧平城京の東京極大路、奈良市雑司町に位置する、華厳宗大本山。

728年(神亀5)、聖武天皇が早

世した皇太子基親王の菩提をとむら

うために建てた金鐘山寺をはじめ

とし、741年(天平13)、国分寺建

立の詔により、金鐘山寺が昇格して

金光明寺となり、東大寺と称した。

広い境内には、大仏殿(金堂)を

中心に、南に南大門、東に二月堂、

法華堂、西に戒壇院などが並ぶ。

天平期の仏像群をはじめ、鎌倉期

の大仏様の建物などがのこり、国宝

29件、重要文化財121件を有する。

1998年(平成10)12月、「古都奈

良の文化財」としてユネスコの世界

遺産に登録された。

東大寺といえば、「大仏さん」を思

うかべますが、本尊の盧舎那仏は

東大寺の象徴。大仏の開眼供養がお

こなわれたのは752年(天平勝宝

4)のことである。



(盧舎那仏)

もともと全国に置かれた国分寺の中心で唐僧鑑真により戒壇院も建立された。華厳宗をはじめとする南都六宗の教理研究に隆盛を極めた学問寺でもある。

〈所在地〉

奈良市雑司町406-1

〈交通〉 JR奈良駅からバス5分

※小学館「古寺をゆく」参照

次回は東寺

動物達と飼主との絆

ドリトル動物病院

院長 笹倉 紀子

はじめて慈恵院さんに

お伺いしたのは五〇年も前になります。私が獣医師になって最初に勤めた動物病院で、力尽きた小さなご遺体を運んだ時です。永田住職様にお会い

して、心を込めて供養して頂きました。命の最期を見届け、悔み悩んでいた若かった獣医師の自分も救われた思いでした。

それから私も修行を積み勉強して、自分の病院を持って四〇年余り、多

くの動物達と飼主様達に

支えられて一生懸命仕事をしてきました。その中で思ったことは、動物と飼主はお互い「唯一無二」の存在であるということです。

退院時にお迎えに来た飼主の顔を見つけて嬉しそうに笑ったワンコ。

腕の中に顔を埋めて安心する猫にゃん。

お別れするとき、初老の飼主さんが、冷たくなった愛犬に「楽しかった

ぞ。」と声をかけ、自分の顔をぬぐった仕草は、今でも忘れられません。何人も邪魔できない、暖かくて強い絆を感じました。

飼主様の愛犬愛猫を思う心には、どんな獣医療もかありません。飼主と家族と一緒にいるお家が一番なのです。最後までお家で看取ってあげて欲しいと思います。

さて、私も還暦が近い頃に町会の役員に呼ばれました。そこには懐かしい元飼主達が大勢いらしたのです。再会して思い出話に華が咲きます。彼らは人と人との絆も造ってくれていたのです。私

は、こんなにも地域に支えられてきたのかと感謝の気持ちで一杯になりました。人生のラストスパークトは恩返しの時だと思っています。

動物も亡くなるとき、「私はもう逝くけれどこの人は大丈夫だろうか。」と飼主の心配をするそうです。虹の橋で待ってるから、また会える時まで元気でいてねと願うのです。



仏教のことば(2) 三法印・四法印

が加わり**四法印**

となります。

まず諸行無常

とはこの世の中

に存在するあら

ゆる物、あらゆる現象は

とどまることなくすべて

刻々と変化して絶対的な

ものは何もないというこ

とです。

また、それを形造つて

いる中身、実体について

も絶対性がないとするの

が**諸法無我**であります。

このことを自分自身に

当てはめてみてください。

何となくはわかるのです

が、人はそのことを突き

つけられますと誰しもが

受け入れ難く抗うこと

あります。

抵抗してみても解決は

しません。そのことを確

りと受け止めて、穏やか

な状態になれたその時、

初めて迷いや悩み、不安

のない**涅槃寂靜**は訪れま

す。

次に**一切皆苦**ですが、

生ある物はたえず変化し

て最後には滅してしま

うということ、それはすべ

て苦しみ以外の何もので

ありません。

ただ人間は絶望的なそ

んな状況においても有難

い智慧が備わっておりま

す。存在していることの

尊さ、生きていることの

すばらしさを感じるもの

であります。

お釈迦様の教えには中



途半端な思いやりや、やさしさなどでは説いてはおられません。真実から目を背けずに現実を確りと生きていることを説いておられるのです。

三法印とは**諸行無常**、**諸法無我**、**涅槃寂靜**のことです。それに**一切皆苦**

三宝（仏・法・僧）について前回、学びました。今回はその中のお釈迦様の教え（法）について学んでまいります。

その前に知っておかなければならないことがあります。

仏教は我々と同じ人間**釈尊**が世の中の道理、有り様に対して発見（気づき）をされた教えということ



難聴

ながた内科クリニック(府中)

院長 永田 宏

TEL 041-369-0707

「人の言葉が聞き取りにくい」と感じているのに、「年のせい」などと放置していないでしょうか。聴力は一般的に40歳代から衰え始め、65〜74歳の3人に1人、75歳以上の2人に1人が補聴器装用などの介入の必要な難聴になります。難聴にはさまざまな原因があり、最新の治療によつて聴力を取り戻せる場合もあります。難聴になるとリスクが高まる認知症やうつ病を防ぐためにも、難聴の原因と治療法、改善法について知っておきましょう。

外耳、中耳、内耳、聴神経、 脳のどこかに異常が

難聴は、音や言葉が聞こえにくい状態です。大きく、伝音難聴、感音難聴の2つに分けられます。この2つが合併している混合性難聴の人もあります。

耳は、外から入った音(空気の振動)をとらえて鼓膜まで伝える外耳、振動をキャッチして増幅する中耳、増幅さ

れた振動を電気信号に変換する内耳という3つの部分で構成されています。

一般に耳と呼ばれている耳介でとらえた音は外耳道に導かれ、鼓膜でとらえられて振動エネルギーとして中耳の耳小骨(ツチ骨、キヌタ骨、アブミ骨)を経由して、内耳の蝸牛かきゅうの中のリンパ液を振動させ、電気信号に変換されます。

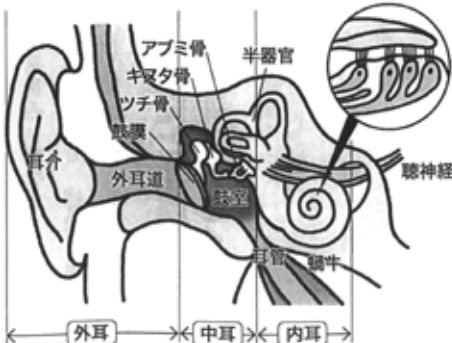
この電気信号が聴神経(蝸

牛神経)を通じて脳に伝わり、音として認識されます。外耳、中耳、内耳、聴神経、脳が連動して音や言葉を聞き取っているのです。

この過程のどこかに不具合が出ると難聴になります。外耳から中耳までのどこかに障害があることで起こるのが伝音難聴、内耳で音を電気信号としてとらえ脳に伝えるまでの過程のどこかに障害があることで生じるのが感音難聴です。

■耳の構造

内耳器官の有毛細胞



伝音難聴の原因となる 鼓膜穿孔は治療が可能

伝音難聴の原因には、耳垢が詰まる耳垢栓塞、外耳道炎、中耳炎、鼓膜に孔が開く鼓膜穿孔、耳小骨のアブミ骨が硬くなりスムーズに動かなくなる耳硬化症などがあります。

耳垢が詰まっているときには、耳垢が詰まっているときには、耳鼻咽喉科で外耳道の掃除をします。外耳道炎、急性中耳炎のような一時的な炎症の多くは、鎮痛薬や抗菌薬などで改善します。

鼓膜穿孔の原因には、中耳炎などの病気、耳にボールが当たったり耳かきや綿棒で突いたりした外傷、ダイビングや飛行機に乗ったときなどの気圧の急激な変化などがあります。鼓膜は再生力が高い組織なので、孔が小さければ、1〜2か月程度で自然に塞がります。ところが、孔が大き